

第3回湖辺面活用・まちづくり部会

1 日時 平成30年11月5日(月)午後1時30分～4時

2 場所 諏訪合同庁舎5階講堂

3 会議内容

(1) 諏訪湖創生ビジョン推進会議会長について

現在空席となっている会長の選任について、事務局長として、「諏訪湖クラブの沖野外輝夫会長」を推薦〔異議なし〕

⇒湖辺面活用・まちづくり部会では、会長に「諏訪湖クラブの沖野外輝夫会長」を選任

(今後、水環境保全部会での承認後、会長に決定)

(2) 諏訪湖を活かした観光施策に係る意見交換

○諏訪地域の観光の現状について〔諏訪地域振興局商工観光課〕

○主に活動している団体から取組等説明

①サイクリングロード・ジョギングロードの利活用

〔諏訪建設事務所〕〔諏訪湖八ヶ岳自転車活用推進協議会〕

②カヌー、ボートの利用

〔諏訪湖周水路復活漕ぎあるきプロジェクト〕〔下諏訪町〕

③インフラツーリズム

〔あってもいいな夢工場湖の驛プロジェクト〕

④フォトスポット情報

⑤芸術・文化施設との連携

○諏訪湖を活かした観光施策に係るワークショップ

4 参加者 構成員 43人

一般 5人

計 48人

【ワークショップの結果】

Aグループ

◎サイクリングロード・ジョギングロードの利活用

- ・自転車の位置情報の取得(GPS)活用により商業利用面でも盛り上がる
- ・諏訪湖を1周周るのは酷な人のため、救済措置として自転車と公共交通(LRT)との連携を図る
- ・自動車と自転車の乗換場所を整備する
- ・トッププロによるロードレースの開催により付加価値をつける(盛り上がり)
- ・障害者が運転できる(牽引できる)自転車により全ての人を楽しむことが可能に
- ・サイクリングロードネットワーク(観光施設、公園、公衆浴場、レンタサイクル)構築により利用活性化の向上を図る
- ・角度はあってもよいので、全ての段差、階段を無くし、スロープ化したユニバーサルロードの整備(赤砂崎に実例あり)
- ・サイクリスト所有の自転車は高価なものが多いため、自転車庫やロッカーの整備によって、盗難防止対策向上にもなり、より多くのサイクリスト集客を図る
- ・諏訪湖を活かした健康づくりのためのジョギングロード(足元灯、街路灯更新)

- ・サイクリングロードの照明を統一規格にし、景観にも配慮する
 - ・電車利用、車利用も含めたレンタサイクルステーションの充実（JR駅、郊外の駐車場）により、諏訪来訪者の交通手段を選ばない集客を図る。
 - ・市営駐車場の料金変更
 - ・サイクリングプラス観光スポットの連携強化
 - ・早朝（7～9時）利用時に朝食をとれる施設の整備、紹介、温泉施設等の情報など、諏訪湖から自転車で安心して行けるスポット
 - ・「今あるジョギングロードをサイクリングロードにして・・・」とある。今のジョギングロードの赤チップを何か再利用できないか（もったいない）
 - ・レンタサイクル拠点（駅）から湖周までの街路灯の整備
 - ・海外からの旅行者を視野に入れた休憩場所、温泉の活用、足湯、シャワー、食事、お土産、案内看板の整備
- ◎カヌー、ボートの利用
- ・カヌーで天竜川を上下する。
 - ・カヌーで天竜川を上下する大会の開催
 - ・昔の船着場の復活（天竜川⇄諏訪湖）
 - ・いつでも水遊びができるような人工渚の活用
 - ・水路を利用した飲食店
 - ・水路の歴史を学ぶ
 - ・カヌー、ボート以外でも、水辺カフェなど水路を使用した街おこし（商業）
 - ・カヌー、カヤックで、流入河川、諏訪湖、舟通しの体験ツアー
 - ・夏の諏訪湖の水は、アオコなどでカビ臭く、湖畔はヒシ、ヨシなど、草木が生い茂りカヌーができない状態
- ◎インフラツーリズム
- ・自転車タクシーによる案内
 - ・天竜川の源流体験
 - ・弁財天の水上施設を造る。
 - ・インフラ整備は、各市町村ごとでなく県一本で統一
 - ・昔の舟を転覆させた冬の北西の風をエネルギーとして利用する風力発電
 - ・舟通しを観光船で
- ◎フォトスポット情報
- ・諏訪合庁から富士山をいつでも見られるように定点カメラを設置する。（冬の夕方の赤い富士山、今日の富士山など）
- ◎芸術・文化施設との連携
- ・諏訪湖の♡ハートを活かした売りを。「諏訪湖で愛を誓う」などのイベント開催
 - ・オプションバスツアー的に湖周の美術館等を周り、途中インスタ映えするフォトスポットで美しい諏訪湖を見てもらうアートツーリズム
 - ・富嶽三十六景の再現を
 - ・アートリングのリングにかけて、一輪車、自転車、三輪車、ヒップ、ベビーカー、車いす、人力車などとの連携

◎その他観光施策

- ・うんかの抑制（水質との関係か。発生する数をもっと少なくすれば、観光客がもっと来るのではないか）
- ・水辺のビアガーデン
- ・大型帆船を水辺カフェに。景色と食事が楽しめるカフェに
- ・トイレ情報（障がい者用含む）をSNSで発信。駐車場とも連携して、パーキング情報も発信

Bグループ

◎観光とは何か？

- ・安全なルール作り、ルールとのバランスが必要
- ・現在の観光客の人数や金額に代わる評価指標を考える必要があるのではないか。
- ・道の駅などに居着いてしまう人がいる。
- ・カヌーの発着拠点、自転車の発着拠点が必要ではないか。どこでやってもよいわけではない。
- ・非完結型で、観光だけで終わらせない仕組みが必要。（リピーター・ライフワーク）
- ・見て、感じて、体験して、心身のリフレッシュになるもの
- ・観光客にとり、新しい発見があるような体験の提供。
- ・気軽に立ち寄り、アクティビティ体験ができる仕組みづくり
- ・（観光客が）得意なことの発掘、活用
- ・観光（イベント）の自然発生を促したり、自然発生するような仕組み作りが必要
- ・地元の人々の諏訪湖の使い方から、観光に繋がるのではないか。
- ・地元の人々も集える場所、地元と観光客が共に使える施設が必要
- ・地元の人々も楽しめる、（地元の人にとり）自分に役立つ施設
- ・地元の人々が暮らしやすくなるような配慮の必要
- ・（観光客にとり）気軽に立ち寄って楽しめる観光の仕組みづくり
- ・自分が楽しむ観光と、人が楽しむ観光の塩梅。例えば地域観光は地元の人々が共に楽しみ、ディズニーランドは来る人を楽しませることに注力している。それらのバランスを考慮する必要がある。

◎諏訪湖の観光資源について

- ・景観、遠景、飲食、水辺の活用
- ・湖岸でのテントサウナを検討したらどうか（サウナの後には凍った諏訪湖に飛び込む）
- ・下諏訪エリア（水辺公園、赤砂崎）でのバーベキュー
- ・初島におけるキャンプ
- ・石彫公園あたりを整備し、ペット連れのオートキャンプ
- ・SUP、カヌー、ボートなどで諏訪湖横断
- ・行政によるハード面（休憩所、食事、駐車場、トイレ等）、インフラ整備が必要。
- ・諏訪市では間欠泉センターでカフェを考えている。
- ・BBQが自由にできる公園、イス、テーブル、日陰があるとよい。石彫公園などはよいエリアである。
- ・ジョギング用にシャワー、ロッカー、駐車場があるとよい。

- ・(諏訪湖利用の観点から) シャワー、駐車場、イス、テーブル、夕陽や景観に配慮した環境(支障木の伐採など)の整備が必要
- ・自然との調和を軸に据える必要がある。
- ・大きなイベントではなく、小さなイベントを積み重ねていくべきではないか。
- ・ゴミ・自然保護など環境負荷という観点から、花火大会の必要性を再考すべき

◎サイクリングロード

- ・湖周サイクリング体験+宿泊のモデルコースなどの設定が必要
- ・(サイクリングに関する)新しいルートの開拓が必要
- ・諏訪湖周以外もサイクリングロードでつないだらどうか。
(茅野～岡谷、美ヶ原～諏訪湖～伊那ルートなど)
- ・(小径の駅など)拠点を作り情報発信すれば、ハブになるのではないか。
- ・小径の駅の設置、活用之际しては、場所の見極めが大事。
- ・サイクリングロードについてはスピード制限などのルール作りが必要。現在でもランナーと自転車との接触事故などがある。
- ・(サイクリングに関する)地元住民への配慮も必要。
- ・グルメライドの実施について、事前に情報が得られなかった。
- ・(グルメライドの情報発信について)チラシは作っておらず、新聞とSNSくらい。10～20人が参加上限だが、計画通りにはいかず1人くらいしか問い合わせがない状況。情報発信に経費をかけすぎると採算が取れない。

◎情報発信

- ・年間イベントの情報提供必要。現状では情報に行きつかない。
- ・HPで年間イベントがカレンダーなどで一括管理されているとアクセスしやすい。
- ・観光に関する情報の一元化が必要
(発信主体は、観光協会?河川管理者?地域振興局?)
- ・観光連盟サイトなどで各団体からアップできないか。諏訪観光ナビを使用したらどうか。
- ・諏訪湖創生ビジョンとしての情報発信が欲しい。(県の情報提供とは別)

◎ユニバーサルツーリズム

- ・諏訪湖周に福祉施設が増えており、障がい者、高齢者などが諏訪湖の観光に関わる機会が増えてきている。その意味で、誰でも諏訪湖に来て楽しめる、出てきやすい施設、インフラの整備が必要。
- ・ユニバーサルツーリズムで諏訪湖を活用しているが、どのように利用しているか、利用の仕方を知ってほしい。くらすわのトイレなど使いやすく参考にしてほしい。
- ・障がい者が外出して諏訪湖へ来る場合、車いすでは湖辺まで遠回りしないと近付かず、結局船着き場から入った。誰もが気軽に利用できる場となるべき。
- ・(サイクリングに関係して)車いすと自転車をくっつける道具がある。車いすと自転車をつないで周遊する形のユニバーサルツーリズムはできないか。

Cグループ

◎諏訪湖を活かした観光施策について

- ・観光振興の切り口が不明。
- ・観光客を増やすのか、自転車等素材を絞り込むのか。
- ・観光客数は非常に落ち込んでいる。旅館・ホテルも単独では立ち行かない。
- ・特に冬の落ち込みが顕著。諏訪湖周りで内外の人が楽しむことで地元が潤う、そのための施策を考えてはどうか。
- ・一過性な施策ではなく、諏訪湖の魅力である様々なアクティビティが見いだせるような広域な捉え方が必要。
- ・境を作るのではなく、危険性を伴っても湖と一体化できるような大きな目でとらえていく事で魅力が生まれる。
- ・とりあえず、湖面活用、観光客増を考えてはどうか。
- ・観光客を増やすためには地域住民の関わりが必須。
- ・観光客が注目することにより、地域住民に受け入れられていく事例もある。
- ・観光の質が変わりつつあるのに、諏訪はそれに追いついて行けていない。

◎観光資源について

- ・自転車もカヌーも移動手段の一つ。
- ・自転車観光はいわゆるママチャリでも問題ないのか。
- ・問題はない。それよりも車道を走る自転車が自動車からクラクションを鳴らされる等マナーが問題。まずは地域住民に自転車も車道を左側通行するものだと理解いただくことが必要。
- ・カヌーについて、河川に障害があって通れない場合など相談する窓口が欲しい。また意見交換の場があるとありがたい。
- ・河川の境界線もソフト化する。ガードレールで境を作るのではなく、河川に設けた階段にカヌーを乗り付け、カフェへ向かうなど。
- ・カヌー、自転車をするにあたり障害となっているものは何か、それを列挙すればどうか。あるものは何か、ないものは何か。
- ・カヌーができれば全国からの観光客は増えるものか。
- ・諏訪でのカヌーは、子供でも安全という特徴がある。
- ・そもそも諏訪湖で何ができるかわかっていない人が多い。今諏訪湖で何ができるかわからない。できることを集約してそれを拡散していく必要がある。
- ・トライアスロンもやっている。
- ・とりあえず何ができるかを挙げて行ってはどうか。
- ・諏訪湖の浄化に対しても関心が薄い。
- ・アンケート結果だと6割近くの方が関心を持っている。
- ・温泉地の中から諏訪を選ぶのはよほどの事。

- ・自転車に比べれば、カヌーは関心を持ってもらえる。船上と岸辺のコミュニケーションも生まれる。
- ・諏訪湖ウォークでは2,000人が集まる。

- ・諏訪湖の魅力発信・情報発信のためのネットワークが必要。

◎情報発信について

- ・宿のHPにアクティビティの案内があるだけで、発信力は上がる。
- ・観光客のニーズを把握することも必要。
- ・そこに住む人が「良い」と思えることも重要。由布院では宿泊施設の食事は地産地消。
- ・諏訪のネットワーク→他地域のネットワーク→宿のネットワークの様に広げていく事ができる。
- ・諏訪のネットワークは断絶している。ラインができないと人が外から来ない。
- ・宿泊予約はほとんどがオンライン予約。自分の持っている情報が少ないと、話ができない。ネットワークは必要。
- ・八ヶ岳も同じ。年間100万人が訪れるが、次の日に楽しむコンテンツ情報がない。
- ・諏訪湖ー八ヶ岳を繋ぐネットワークでもよい。
- ・山と水を繋ぐというような。
- ・6市町村での連携が必要。
- ・諏訪には観光の柱はたくさんある。
- ・諏訪湖周には駐車場が少ない。
- ・駐車場情報も発信してはどうか。
- ・赤砂崎にも駐車場があるが、カフェなどがあるとよい。
- ・情報交換の場がない。
- ・今あるもので十分できる。今あるものを活かしてどんなものを提供できるかを考えることが大事。
- ・観光資源の活かし方が変わってきている。
- ・電車で来る観光客に対し、バスの路線が少ない。霧ヶ峰に行くのにもバスが少ない。
- ・カヌー、自転車の様に体を左右対称に動かすスポーツは健康増進に効果があるという話もある。
- ・下諏訪町では湖周にフットライトを設置したが、インターバル速歩の目安となるようにライトの色を変える工夫をしている。
- ・(そういった取り組みが)湖周全体でなぜできないのか。市町村レベルでの情報交換も必要。

Dグループ

①サイクリングロード・ジョギングロードの利活用

- ・諏訪湖マラソンは地元参加者が多い。健康に活かされれば賑わい、観光にも繋がる。
- ・渡りたくなる、渡りやすい歩道橋の設置。展望台を設ける。
- ・歩道の照明を工夫して、夜でも楽しく歩ける諏訪湖にすれば人も集まるのではないかな。
- ・地域の名物をマラソンに振舞えば楽しみに参加する人も増える。
- ・サイクリングガイドが浸透すれば観光施設とも紐づけができる。
- ・ジョギングなどをした後に血圧を測り健康管理するのも良い。

②カヌー・ボートの利用

- ・カヌーは方向性が難しい。
- ・カヌーでの風景は別物。夏は臭いがひどい。
- ・カヌーでお金を取るのは諏訪湖が綺麗になってからの話。
- ・カヌーと他の施設の観光をセットで案内できる。諏訪湖を綺麗にしようと繋がられるようにできればさらに良い。
- ・スワンボートに電動アシストやソーラーを付ければよいかもしれない。
- ・地域の人ボランティアは重要。
- ・諏訪湖が綺麗でないと本当に人は来ない。
- ・水上飛行機が飛ばせないか。飛行機が離着陸するだけでも注目が集まる。
- ・カヌーにドローンを付けて撮影するサービスを試してみよう。
- ・諏訪湖の中を水中ドローンで見れば面白い。実際に行っている。
- ・下諏訪の艇庫は貴重な価値がある。
- ・下諏訪の艇庫の3階は展望スペースとしてもよい。

④フォトスポット

- ・県のホームページにアップしても誰も見に来ない。
- ・Instagramは反応が良い。地図とナビ情報は大事。
- ・ボートの練習風景はフォトスポットになり得る。
- ・富士山と諏訪湖が見られれば客は来る。

⑤芸術・文化施設との連携

- ・原田泰治美術館の2階の喫茶コーナーは眺めが良い。
- ・諏訪地域のギャラリーは狭い。広いギャラリーを作り、喫茶を設ければどうか。

⑥その他

- ・綺麗な諏訪湖がベースとなり、そこから色々と展開が開ける。
- ・諏訪湖は唯一湖の周りに人が住んでいる。諏訪湖との共生が必要。